

第3章 重点プロジェクトの進捗状況

「環境基本計画」では印西市の環境をより良くする上で、他の施策より優先的に取り組むことが必要な施策や着実な進展が求められている事項について、市が取組みを進めている個別目標の中から「重点プロジェクト」を設定しています。

3-1 里山の保全・活用モデル事業の推進（重点プロジェクト）

【 中心となる担当課：都市整備課 】

農家や地元の方々の暮らしの中で育まれてきた樹林地、農地、水路、歴史・文化財などが共存する里山環境を守るために、先進的な事業を展開し、農業従事者と周辺住民との交流、住民による樹林地の維持管理、新鮮な農作物の供給、高齢者の生きがいづくり等につなげていきます。

平成18年度実施状況

市では結縁寺地区をモデル地区に設定し、里山の保全・活用事業を進めています。これまでに結縁寺池周辺の散策路や蓮田を、結縁寺周辺の住民、NPO法人やボランティアが協力して維持管理・整備を行ってきました。

平成18年度は、NPO法人の協力のもと市民による蓮田の拡張を行い、多くの市民に訪れてもらうことで、里山の保全・活用につなげています。



結縁寺池の蓮田

平成19年度の予定

結縁寺地区をはじめとした市内の里山環境について、農業従事者、周辺住民と協力・連携を図りながら保全・活用を検討していきます。

3-2 生物モニタリング調査の実施（重点プロジェクト）

【 中心となる担当課 ： 生活環境課 】

谷津田環境をはじめとした貴重な自然環境を守っていくため、市内に生育・生息するさまざまな生き物を毎年モニタリングし、地域の自然環境や変化を把握していきます。また、市民の方々が生き物とふれあうことで、自然への関心や保全への理解を深める機会を創出します。

平成 18 年度実施状況

市民が調査員となり、市・教育機関等が連携・協力しながら市内全域のモニタリング調査を実施し、「身近な生き物マップ(昆虫類編)」を取りまとめました。

このモニタリング調査では、市民がよく知っている昆虫類の中で、環境との結びつきが比較的わかりやすい6種類を対象に調査しました。また、調査対象種以外にカブトムシ、モンキチョウやアゲハチョウなど72の記録が寄せられました。

調査には73名の方々が参加し、参加者からは「身近な自然に驚きがあった」、「今まで知らなかったトンボの特徴を知ることができた」など、市の自然や生息する生き物に驚きや発見があったとの声が寄せられ、市民への自然環境に対する啓発が図られたと考えています。



平成 18 年度版 身近な生き物マップ(昆虫類編)

項目	内容
調査期間	平成 18 年 7 月 21 日 ~ 8 月 31 日
対象種	昆虫類
調査した生き物	トンボ(4種) : シオカラトンボ、ハグロトンボ、ウチワヤンマ、チョウトンボ
	チョウ(2種) : ムラサキシジミ、ゴマダラチョウ
参加人数	73 名

平成 19 年度の予定

平成 19 年度は、魚類・両生類を対象にしたモニタリング調査を実施します。今後も調査の対象種を変えながら、継続して実施する予定です。調査した結果は「身近な生き物マップ(魚類・両生類編)」として取りまとめ、ホームページ等で公開する予定です。

項目	内容
調査期間	7 月上旬 ~ 8 月末
対象種	魚類・両生類
調査する生き物	魚類(3種類) : ヨシノボリ類、ドジョウ、タイリクバラタナゴ
	両生類(3種類) : トウキョウダルマガエル、ウシガエル、アマガエル

3-3 町営塵芥焼却場跡地の環境調査の推進（重点プロジェクト）

【 中心となる担当課：生活環境課 】

町営塵芥焼却場（竹袋焼却場）は、現在、焼却場・廃棄物の埋立地となっていますが、埋立てられた廃棄物は現存し、廃棄物の流出や地下水への^{しみ出し}滲出などといった周辺環境への影響が懸念されています。周辺住民への不安を取り除くため、水質や土壌の環境調査を実施し、将来にわたり周辺環境を保全していきます。

平成 18 年度実施状況

焼却場跡地場内の観測井のうち、地下水が確認できる井戸（6本）、場外の観測井（5本）、湧水2箇所、池1箇所、既設井戸1箇所の水質調査と、臭気及び湧出ガス調査を4箇所で行いました。

また、町営塵芥焼却場跡地の用地登記業務を実施しました。

調査結果から、平成 18 年度においても場内の観測井1箇所（7）において、ほう素が環境基準を超過して検出されましたが、場外の観測井等からは検出されていないため、地形の改変を行わない限り、直ちに周辺環境へ悪影響を及ぼす危険性は低いと考えられます。

また、用地境界が不確定であった箇所について、用地登記業務を実施したことにより、境界を確定することができました。

なお、今後も周辺環境への影響を継続して監視していく必要があります。



調査の風景

平成 19 年度の予定

敷地周辺の将来的な環境保全のため、今後もモニタリング調査を継続し、経年変動を把握していく予定です。また、併せて対策工及び対策時期の検討も行っていきます。

調査時期	モニタリング調査項目	調査の概要
夏季	臭気分析	場内観測井4箇所
	湧出ガス測定（3項目）	場内観測井4箇所
	水質分析（26項目）	場内観測井6箇所、場外観測井5箇所、湧水2箇所、池1箇所、場内既設井戸1箇所
	水質分析（7項目）	場内観測井6箇所、湧水2箇所、池1箇所
冬季	水質分析（26項目）	場外観測井5箇所

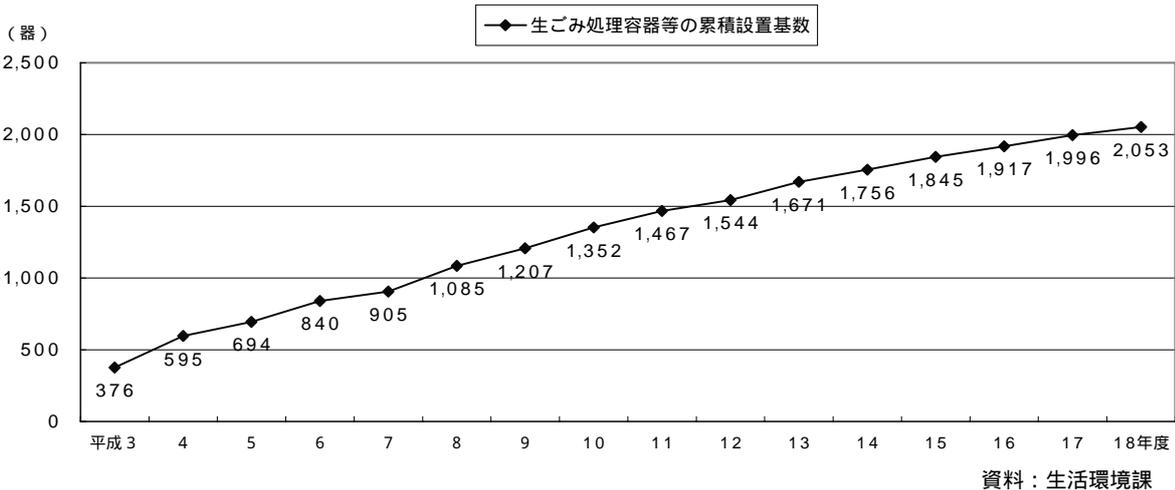
3-4 生ごみ減量堆肥化の推進（重点プロジェクト）

【 中心となる担当課：生活環境課 】

家庭から出る燃やせるごみは、ごみの総排出量の大半を占めています。その中でも生ごみの割合は大きく、ごみの排出量を減らしていくためには、家庭でできるごみ減量化、資源化を普及することで、生ごみの堆肥化を積極的に進めていく必要があります。

平成 18 年度実施状況

印西市では、これまでに生ごみ処理容器などを購入した家庭への補助金交付を継続実施し、「生ごみ処理容器等購入費補助金制度」に関するPRを広報いんざい（3回掲載）やホームページ等を通じて行ってきました。平成18年度は新たに57基の購入補助を行いました。これまでの累積設置基数は2,053基になり、生ごみ処理容器による生ごみ減量化の取組みは市民に徐々に広がってきています。



平成 19 年度の予定

広報やホームページ等を通じて生ごみ処理容器等購入費補助金制度の普及・啓発活動を行います。また、生ごみ処理機でできた生成物の回収を行います。

コラム ～ 生ごみ処理容器等を購入すると補助金が交付されます ～

生ごみ処理機：購入額の2/3に相当する額を補助。(ただし、限度額は40,000円とする)

生ごみ処理容器：購入額の2/3に相当する額を補助。(ただし、限度額は3,000円とする)

一般的に4人家族から出る生ごみは、1日平均約700gと言われており、生ごみ処理機の機種にもよりますが、生ごみを1/4から1/10程度に減容できます。

【 問合せ先：生活環境課 クリーン推進班 電話：0476-42-5111 内線364 】

印のついている用語の詳細については、資料編 P.65 以降の用語解説を参照下さい。

3-5 印西市環境マップの作成（重点プロジェクト）

【 中心となる担当課：生活環境課 】

印西市には、樹林地や農地、水辺、歴史文化財などの環境資源が残されており、市内の特徴をもっと知りたいという声が聞かれています。市民からの情報を集積するとともに、マップの作成を通じて市民・事業者等への情報提供、活用を目指していきます。

平成 18 年度実施状況

身近な生き物マップの作成

生物モニタリング調査を通して市内全域の昆虫類の生息状況を把握し、その結果を「身近な生き物マップ（昆虫類編）」として取りまとめました（重点プロジェクト 参照）。

環境情報の集積

広報いんざいを通じて市内に残っている湧水や巨樹・巨木林の情報を募集しました。平成 18 年度は情報がほとんどありませんでしたが、現在得られている情報を元に現地調査を行いました。

平成 19 年度の予定

身近な生き物マップの作成

市内に生息する魚類・両生類の生息状況に関する調査を実施し、「身近な生き物マップ」として取りまとめます。

環境情報の集積

平成 18 年度に引き続き、湧水・巨樹・巨木林に関する情報を収集し、環境マップ作成準備を進めます。

